



次期住職の結婚の報告



浄福寺
門徒会発行
☎ (025) 536-2532
FAX (025) 536-2674
✉ jofukuji@alpha.ocn.ne.jp

この度、私の長男大智が、広島出身の山神加奈恵さんと昨年10月8日に浄福寺本堂で雅楽の音色とともに厳かに仏前結婚式を執り行いました。子供の頃より皆様から「大ちゃん」と呼んでかわいがっていただき、家でもいつもニコニコしていた大智が結婚したので、とても感激しました。当日は、親戚の方々の他、本願寺からも上司や同僚が駆けつけて下さり、何より天候にも恵まれました。また、例年ならばいつもは枯れてしまっている彼岸花がまだ咲いており、あたかもこの日を祝ってくれているようでした。門信徒の皆様も何人か見学に来て下さいました。結婚式は、ただ二人が結婚するというだけでなく、浄福寺のご本尊をはじめ歴代の先代達に報告するという意味合いが込められています。大智の結婚式を楽しみにしていた前坊主もお浄土で喜んでくれていると思います。また、二人が結婚したということは、浄福寺にとっても皆様方にとっても、とても意味深いものだと思います。私にとって後継ぎがいるということは大変心強いですし、それだけでなく、いのちを受け継ぐ者がいるということがとても嬉しいのです。それはご門徒様方も同じだと思います。ただ、在家出身でまだお寺の事に不慣れな加奈恵さんには、無理せず楽しく過ごしてほしいです。

お式の後、高田駅前のアートホテルに移動して披露宴を執り行いました。総勢60名のご出席のもと、皆様方から祝福して頂き、楽しいひとときを過ごしました。また、本願寺の式務の上司からの祝辞やクレアの演奏などで大いに盛り上がりました。

いよいよラストの場面では、まず新婦の加奈恵さんがご両親に宛てて手紙を読みました。こゝは『涙涙の場面』だと思ったのですが、それ



結婚式の写真は、本堂の廊下に掲示してありますので、是非ご覧下さい。

はありませんでした。(我慢されていたのでしょうか)

次に新郎の大智の番です。よく見ると、涙顔でこちらに歩いてきましたので、思わず私の方がウルウルしてきました。隣にいた坊主も涙を拭いておりました。そこでもう我慢できずに私も涙を流してしまいました。前に座っていた私の娘たちも同じように泣いており、それを見てより一層泣いてしまいました。涙を流すのは新婦側だと思っていました。私達の場合は逆でした(笑)。

こちらが主催する結婚式は初めてでしたので、この日をお迎えするにあたり、大掃除から始まり、各方面と何度も打ち合わせをしたり、様々な準備をして本当に大変でした。(本人たちが京都から何度も打ち合わせに来たのが一番大変だったと思います。)準備万端のつもりでしたが、当日はハプニングが続出でした。それでも、おかげさまでとても楽しく充実した一日でした。



死は存在しない その2

寺報第51号の続きです。量子力学の工学博士である田坂広志氏は著書『死は存在しない』の中で「私たちは肉体がなくなっても、死ぬわけではありません。」と述べています。現代科学で証明されようとしていることが昔からの仏教の言葉に示されておりましたので、私はすべてが真実であると確信をもてるようになりました。浄土真宗では『死んでいくのではない お浄土に生まれてゆくのだ』と説かれています。『今生の縁つきるときお浄土に往生する。往生とは往き生まれること。死んでゆくのではない。』

往生とは「仏様」に生まれるということですから。田坂氏は「永遠の命である『仏』とは、我々が死を迎え、肉体が滅びた後も、ゼロ・ポイント・フィールドに記録された『我々の意識の情報』は、そのフィールド内に記録された『他の人々の意識の情報』すなわち感情や想念、知識や叡智などと相互作用を続け、さらには、フィールド内に記録された『この宇宙に関するすべての情報』を学びながら変化し続けるのではないだろうか。宇宙意識は、絶え間なく成長と進化へと変化していく。」と述べています。少し難しい文章ですが、「仏になる」とは宇宙意識と一体になり、しかもその後も成長し続けるということなのです。

『法華経』には
「仏とは、永遠の生命であり、それはいたるところに存在し、くりかえしこの世に現れてくる。」

と示されています。『仏様』とは「自利利他」のはたらきをする方です。ですので、



今生きている私達が大切なことに気付き、本当の幸せになり、人として成長することが仏様になられた方も成長することなのです。お通夜でよく紹介するのですが、アランの著書『幸福論』には

「しっかりとものを見、よく耳をすますがいい。死者たちは生きようと欲している。あなたの内部で生きようと欲している。かれらの欲したものをあなたの生命が豊かに展開することと書かれています。また、日頃からお勤めしています『正信偈』には

「得至蓮華藏世界 即証真如法性身
遊煩惱林現神通 入生死園示応化」

と示されています。分かり易く言いますと「蓮華藏世界とはお浄土のこと、そこに至ることを得れば仏様になり、その仏様はもう一度この煩惱に満ちた世界に帰ってきて、いろんな場所でいろいろな姿となって遊ぶがごとく私達を大事なところへ導く」というのです。

私達が「仏様」になるということは、生きている人達を大切な道へ導くということです。しかしながら、その教えに遇うことなく快樂だけを追い求めている者にとっては、仏様になられた先人達も成長しないで終わってしまいました。そしてやがて忘れられる存在となってしまいます。それが本当の「死」ということなのです。日頃からのお参りや法事などの仏事（仏教の教えを聞く）は、亡き人達の供養ではなく、その方々からの「贈りもの」といえましょう。次回は、その「贈りもの」が私達をいい方向に好転させていくことについて書きたいと思えます。

次号第53号に続きます。

大杉さん、ありがとうございました



一昨年、大杉さんが大きな贈り物をして下さいました。その度は、その贈り物の銅像を解説した碑文を彫った石を設置しました。そこには、

「汝我供には及ばん 柿崎に立戻り 夫婦諸共に 其の御名号を安置して 弥陀の本願を弘通して 北国の同行、浄土往生の先達をせよ」と善順坊が親鸞聖人に諭される場面が彫られています。

これは、浄福寺にとつてとても大切な言葉です。

源氏の武将であった井上忠長は、ご縁があった親鸞聖人と出会い、教えを受けてお弟子となりました。そして聖人から法名を「釋善順」と授けられました。次の日、一緒に御供しようとして米山川を渡りますが、聖人は

「あなたは私と共に行くつもりだろうけれど、柿崎に戻り、夫婦一緒に背中に背負っている九字の名号をご安置して弥陀の本願を弘め、北国の同行を浄土往生へ導きなさい。」と仰せになりました。このお言葉があったからこそ、今の浄福寺があるのです。

今後大杉さんのことを忘れず、大切にこの法義を伝えていきたいと思えます。

また、今回設置した石の裏には、大杉さんが病床で書いた直筆の文字が彫ってあります。大杉さんが三代にわたって浄福寺を支えてくれた証です。

「大杉さん、ありがとうございました。」



大智・加奈恵のお披露目会

門信徒の皆様方を結婚式にお招きできませんでしたので、11月3・4日にお披露目会を実施しました。3日は約150名、4日は100名近くの方が祝福に来て下さいました。まず、二人に可愛い子供達からの花束贈呈です。

3日は、吉田理人さん(阿弥陀瀬)、小山莉七さん(四区)。

4日は、海野渚さん(出羽)、布施青依さん(上越市)。4人とも、このお披露目会に花を添えてくれました。とても可愛かったです。

その後、門徒会会長の新澤貞一さんをはじめ、門信徒を代表して木村芳明さん(3日)と布施静江さん(4日)からお祝いの言葉を頂きました。そして、大智と加奈恵さんから御礼の挨拶がありました。



布施青依さん 海野渚さん



小山莉七さん 吉田理人さん



新澤会長

も素晴らしかったです。お返しに両日とも大智が龍笛で「故郷」を演奏しました。雅楽には、箏・築・笙・龍笛

二人とも立派に挨拶してくれました。その日は加奈恵さんのお母様も出席されました。坊主としての初めての仕事なので見届けたという事で広島から来て下さいました。お手伝いもして下さい、嬉しかったです。お祝いの演芸では、3日には4区の飯村雅洋さん、日根津の小林チヨ子さんから詩吟を、4日には落合の今川ミヨ子さんから民謡、そして7区の山澤美代子さんから日本舞踊を披露して

「この度、10月8日に浄福寺本堂にて山神加奈恵さんと結婚式を挙げました。その際には皆様方から心温まる「御祝」を頂き、心より御礼申し上げます。私がこの日を迎えることができましたのも、ひとえに門信徒の皆様のおかげです。改めて感謝申し上げます。将来、浄福寺に戻った時は、右も左もわからないことばかりでいろいろご迷惑をおかけするかもしれませんが、その都度ご指導いただければ幸いです。これからも温かく、時には厳しく見守っていただきますようお願い申し上げます。これからは二人で力を合わせ、敬愛の念をもってお互いに支えあい、幸せな家庭を築き、喜びも悲しみも分かち合い、お互いに向き合う関係からともに同じ方向に向かって人生を歩んでまいりたいと思えますので、どうぞよろしくお願いたします。」



この度の披露目会では、皆さまとの絆を強く感じ、とても嬉しく思いました。ありがとうございました。まだしばらくは、二人は京都にいますが、こちらに帰ってきた時には温かい心でご指導下さいますよう、どうぞよろしくお願申し上げます。

の三管がありま(私の持ち管は箏築です)。実は、一番難しく一番肺活量が必要なのが龍笛です。本願寺の式務に入ったときにも「大丈夫かなあ」と内心心配していましたが、上手に演奏する姿を見てとても安心しました。



今川ミヨ子さん



山澤美代子さん



飯村雅洋さん 小林チヨ子さん

浄福寺お煤払い清掃奉仕の御礼と次回のお願

令和5年12月3日、午前9時より「お煤払い清掃奉仕」を、出羽・1区・2区・3区の皆様39名と常任委員9名のご参加により実施しました。皆様方には綺麗に掃除をしていただき心より御礼申し上げます。以前に葉書で「清掃奉仕が多い」と苦情を書いた方がおられました。参加された皆様には、ご理解・ご協力いただき深く感謝申し上げます。

次回は、お引き上げ前の清掃奉仕になります。が、荻谷・阿弥陀瀬・川井・行法・角取・高寺・柳ヶ崎・川田の皆様にお願います。皆様が参加して下さることが、お寺の護持発展と深い絆に繋がっていきま



どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「初参式」並びに「新一年生を祝う会」合同開催のご案内

以前は「初参式」と「新一年生を祝う会」を別の月に開催しておりましたが、年々参加される方が少なくなってきたので、昨年より合同で開催致しております。

該当される方、または前の年に参加出来なかった方でも結構です。是非参加して下さい。皆様の子供さんは、皆様にとってももちろんかけがえのない宝物ですが、私達にとっても大切な宝物ですので、一緒に御祝いしたいと思います。当日ご参加いただいた方には、お祝いの記念品をお渡しします。



記

- 日時 5月12日(日) 13時30分～14時30分
- 会 所 浄福寺本堂
- 参加費 1,000円
- どうぞ普段着でお気軽にお越し下さい。

2024(令和6)年度 浄福寺の定例行事

- 修正会 1月1日(月)
- 年始 1月1日(火)～3日(木)
- 寺年始 1月4日(金)
- 初お講 2月16日(金)
- 春季彼岸会法要 3月20日(水・祝)
- 初参式並びに新一年生を祝う会 5月12日(日)
- 第1回墓地草刈り清掃(浄福寺にお墓のある方) 6月2日(日)前日に機械刈り
- 報恩講お引き上げ 6月20日(木)～22日(土)
- 門徒会世話人総会 6月23日(日)
- 第2回墓地草刈り清掃(浄福寺にお墓のある方) 8月4日(日)前日に機械刈り
- 町・在方盆会法要 8月7日(水)
- 盆参 8月13日(火)～15日(木)
- 秋季彼岸会法要 9月22日(日・祝)
- 終お講 11月16日(土)
- 除夜会 12月31日(火)
- その他の行事
 - 東日本・能登半島大震災追悼法要 4月7日(日)
 - 第7回手しごと・手づくり展 9月13日(金)～15日(日)
 - 第27回浄福寺公開講座 講師 今井雅晴師 9月29日(日)
 - チャリティーコンサート 11月未定
 - 浄福寺清掃奉仕 6月9日(日)と12月8日(日)
 - 赤倉ホテル有縁講 11月未定

後記

今後共皆様方からの本誌へのご要望・ご意見、そしてご投稿をお気軽にお寄せ下さいませ。様お願い申し上げます。

編集 寺報編集委員会